

# 水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）

## 1 現況写真の撮影方法

海岸における漂着ゴミの状況を写真撮影する条件を下記に示します。

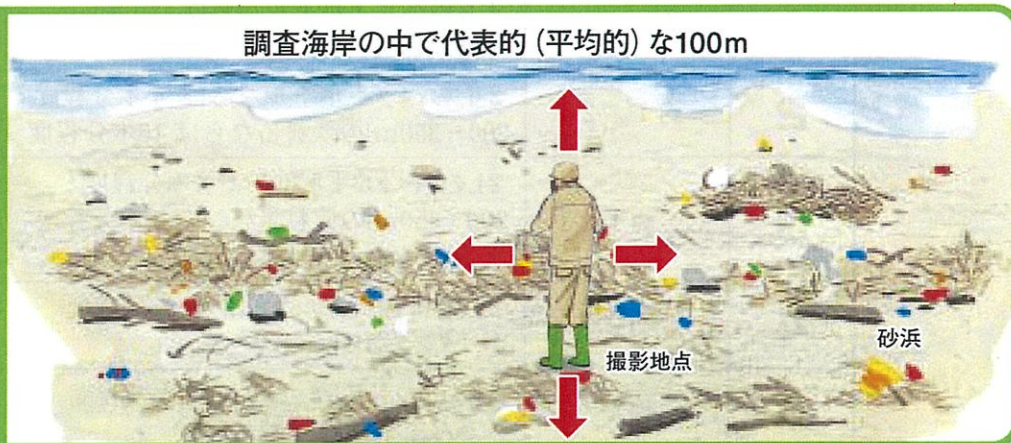
- (1) 海岸が砂浜か岩場か、徒歩で行けるか降りられるかそれぞれ条件が異なりますが、概ね次に図示した3つの事例を参考にして、4方向又は3方向に向けて撮影します。
- (2) 撮影する際、デジタルカメラのファインダーの上端が、水際線又は地平線よりほんの少し下に位置するようにデジタルカメラを下方に傾けて撮影します。

※使用するデジタルカメラのズーム機能は使用せずに撮影します（焦点距離35mmが基準）。

### 写真撮影 事例 A

奥行きがある海岸  
(砂浜)

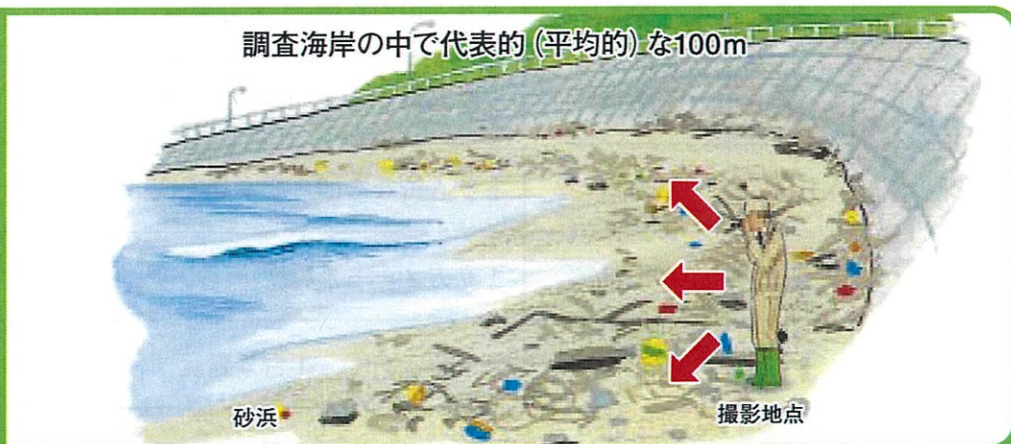
4方向の撮影



### 写真撮影 事例 B

奥行きがない海岸  
(砂浜)

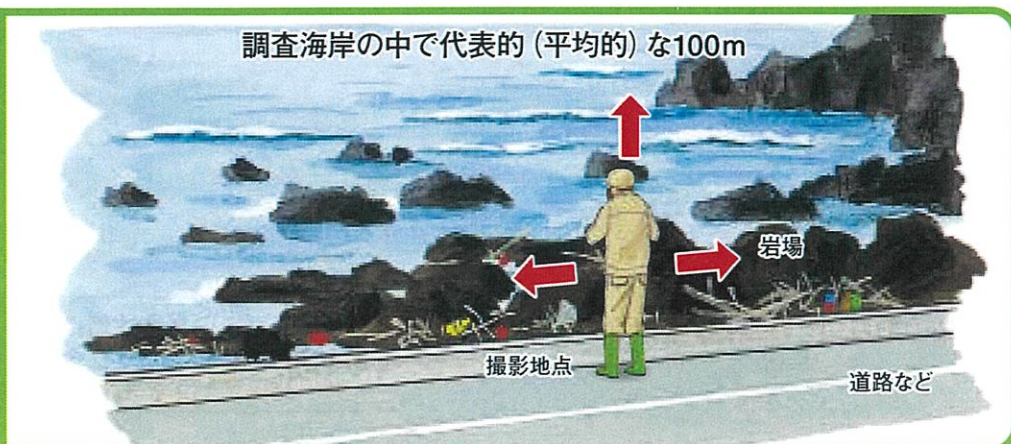
3方向の撮影



### 写真撮影 事例 C

奥行きがない海岸  
(岩場)

3方向の撮影



## ② ゴミの状況<ランク>の判定方法

撮影地点を中心に、海岸線延長距離約10mに漂着しているゴミ（自然物を除く）の量（かさ容量）を目視で確認します。

〔10m〕×〔海岸の奥行き〕の範囲にある漂着ゴミを回収したと想定した場合、中型の家庭用ゴミ袋（幅50cm×高さ60cm）でおおよそ何袋必要になるかを推測します。下表より、**ゴミ袋の数量**に対応した<ランク>を求めます。

### ゴミ袋数と<ランク>の対応表

〔海岸線延長距離10m〕×〔海岸の奥行き〕の範囲の漂着ゴミを回収したと想定

| ランク       | ゴミ袋の数量  | 回収した際のゴミのかさ容量の表現として  | かさ容量<br>(リットル) |
|-----------|---------|--|----------------|
| <b>0</b>  | 0       | (自然物を除いて) 全くゴミがない  | 0              |
| <b>T</b>  | 約 1 / 8 | 500mlのペットボトルならば<br>3 - 4 本分程度                                      | 2.5            |
| <b>1</b>  | 約 1 / 4 | 2 Lのペットボトルならば<br>2 本分程度  | 5              |
| <b>2</b>  | 約 1 / 2 | 2 Lのペットボトルならば 4 本分程度<br>200 - 350mlの飲料缶ならば 15本分程度                  | 10             |
| <b>3</b>  | 約 1     | 2Lのペットボトルならば 8 本分程度<br>200 - 350mlの飲料缶ならば 30本分程度<br>ポリタンクならば 1本分程度 | 20             |
| <b>4</b>  | 約 2     | 2 Lのペットボトルならば 16本分程度<br>ポリタンクならば 2 本分程度                            | 40             |
| <b>5</b>  | 約 4     | 2Lのペットボトルならば 32本分程度<br>みかん箱ならば 3 個分程度                              | 80             |
| <b>6</b>  | 約 8     | ドラム缶ならば 1 本分未満   | 160            |
| <b>7</b>  | 約16     | ドラム缶ならば 15本分程度   | 320            |
| <b>8</b>  | 約32     | ドラム缶ならば 3 本分程度   | 640            |
| <b>9</b>  | 約64     | 1 立方メートル程度   | 1,280          |
| <b>10</b> | 約128    | 軽トラックで 1 台分程度  | 2,560          |

※判断が難しい場合は、別紙「ゴミの状況<ランク>別の写真撮影例」を参考にして判定して下さい。

2006.12

水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）

水辺の散乱ゴミの指標評価手法は、国土交通省東北地方整備局、J E A N / クリーンアップ全国事務局及び特定非営利活動法人パートナーシップオフィス が2004年に協働で開発したものです。

【問合せ】 0234-26-2381